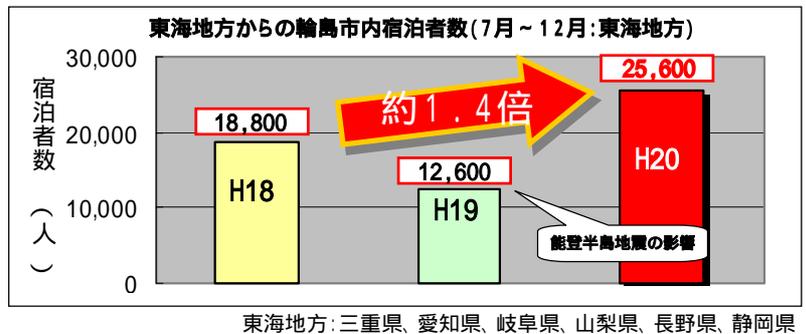
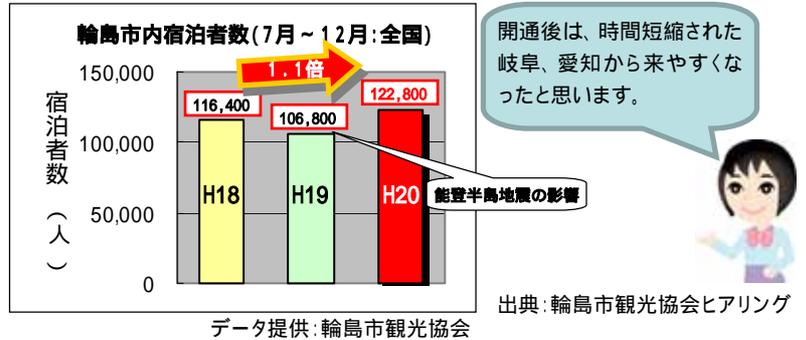
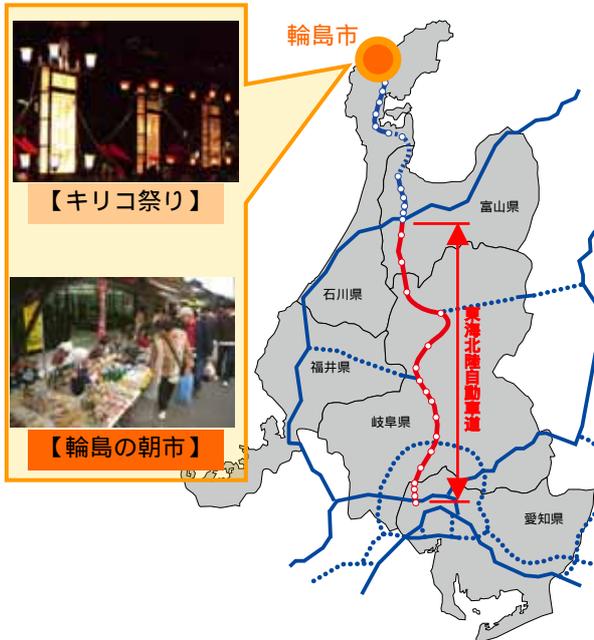


2-2. 観光業等への波及効果

1) 北陸地域では開通に伴い、輪島市の宿泊客が増加。

- ・開通後、輪島市内の宿泊者数はH18年1,164百人(7~12月) H20年1,228百人(7~12月)と64百人増加しました。
- また、東海地方からの宿泊者数はH18年(7~12月)188百人 H20年(7~12月)256百人と約1.4倍増加しました。

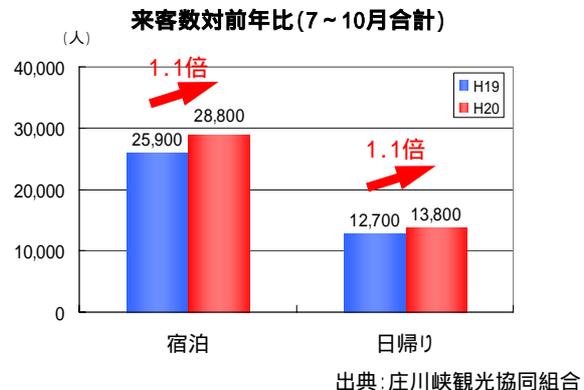
開通後の東海地方からの宿泊客が1.4倍増加



2) 東海北陸道沿線の温泉地の来客数が増加

- ・東海北陸自動車道の全通により、庄川温泉郷の来客数(宿泊・日帰り)が前年比約1割増加しました。(対前年比7~10月合計)
- ・全線開通により移動時間が短縮されたことから、宿泊者の滞在時間が長くなり、部屋の準備で従業員を増やして対応するなど雇用の創出も見られます。

温泉地の宿泊・日帰り客数が前年比約1割増加



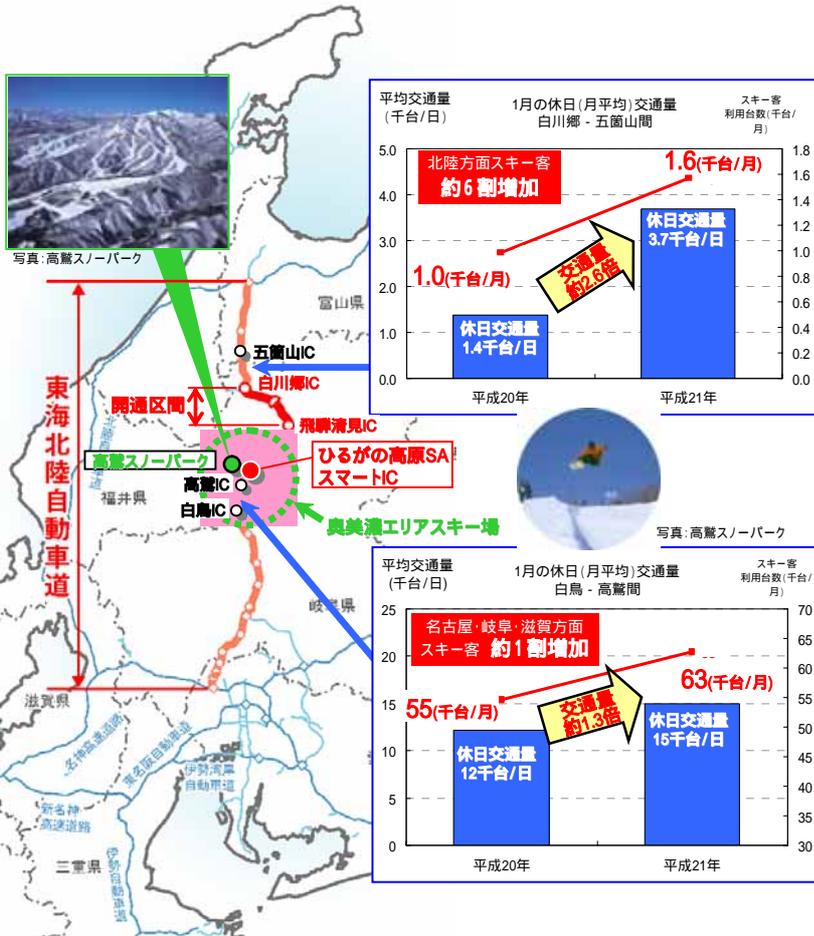
全線開通により移動時間が短縮されたことから、宿泊客の滞在時間が長くなり、部屋の準備等の時間が短くなり、従業員を増やして対応しています。

出典: 庄川峡 温泉施設ヒアリング

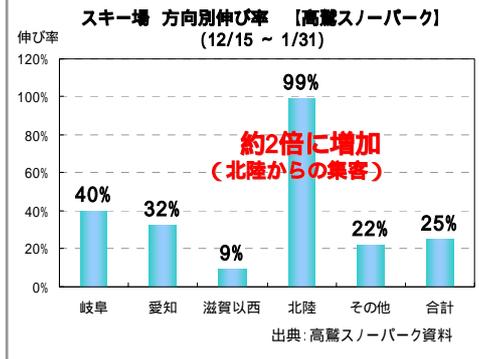
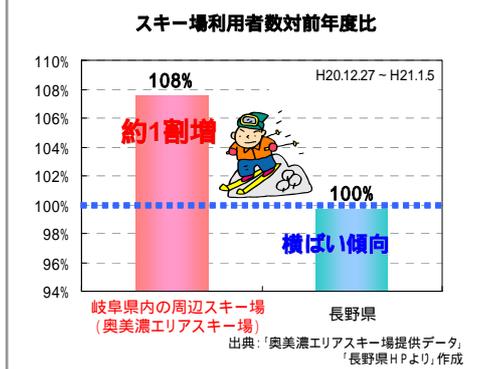
3) 岐阜県奥美濃エリアのスキー客増加

- ・ 東海北陸道自動車道の全通により年末年始のスキーシーズンにおける岐阜県奥美濃エリアのスキー場では、利用客が前年比約1割増加しました。
- ・ 特にスノーボードワールドカップ開催地である高鷲スノーパークでは、北陸地域からの集客が2倍に増加しました。ひるがの高原のスマートICでも、休日の出入り交通量が約1.7倍に増加し、これまで観測されなかった北陸方面からの利用も発生しています。

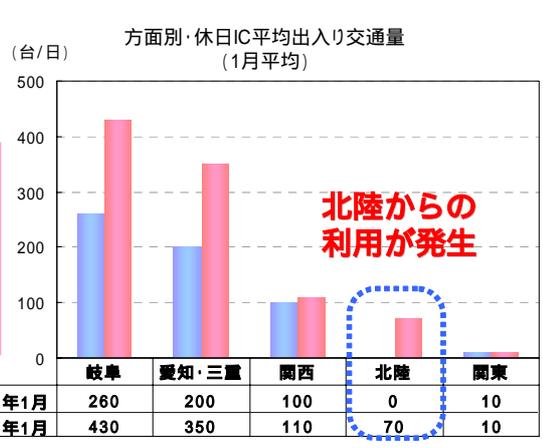
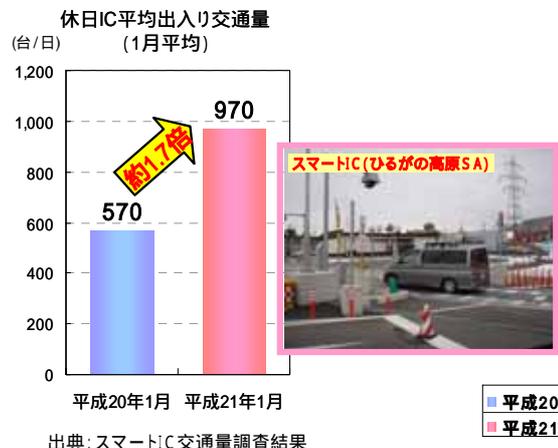
1月休日の開通区間利用者は北陸方面からが前年比約2.6倍



岐阜県内のスキー場で利用客増 (北陸地域から約2倍の伸び)



スマートIC (ひるがの高原SA) も追い風に



出典: [1月の休日(月平均)交通量] NEXCO中日本
 [スキー客利用台数] 奥美濃エリアのスキー場(ダイナランド+鷲ヶ岳+高鷲スノーパーク)の1月1日~1月31日データを集計)への来場者のナンバーより方面別利用台数(千台/月)
 [高鷲スノーパーク写真] 高鷲スノーパーク提供資料